

令和5年度豊島区教育委員会
特別支援教育検討委員会及び不登校対策委員会の実施状況について

1 特別支援教育検討委員会

(1) 委員一覧

役職	氏名	区分	所属等
委員長	中西 郁	学識経験者	十文字学園女子大学 教育人文学部児童教育学科教授
委員	丸山 里奈	心理	精神保健福祉士 ガイダンスカウンセラー
	高橋 順子	幼稚園長代表	豊島区立南長崎幼稚園
	佐藤 洋士	小・中学校長 代表	豊島区立池袋本町小学校
	岡泉 美和子		豊島区立駒込中学校
	仁科 光一	特支学級設置 校長代表	豊島区立池袋第三小学校
	佐藤 高彦		豊島区立西池袋中学校
	菅谷 哲史	保護者代表	豊島区小学校PTA連合代表（巣鴨小学校）
	市川 美豊子		豊島区中学校PTA連合代表（池袋中学校）
鈴木 孝子	関係機関等	都立王子特別支援学校	

(2) 委員会開催日

第1回	令和5年 5月18日(木)	10:00～11:00
第2回	令和5年11月10日(金)	13:00～14:00
第3回	令和6年 2月 6日(火)	15:30～16:30

(3) 今年度の検討テーマ

「豊島区特別支援教育の在り方の共有」

教育委員会及び学校は、「豊島区特別支援教推進計画」に基づいて様々な取組を行っているが、特別支援教育に関する各取組の方向性が定まっていない部分があった。「豊島区特別支援教推進計画」の進捗状況を確認しながら、特別支援教育の在り方について共通認識する必要がある。

(4) 今年度の成果と課題

① 成果

共生社会の形成に向けた、本区における特別な支援を要する子どもへの支援の状況、及び体制・環境について見つめ直し、資料にまとめることができた。また、特別支援学級設置校における「交流及び共同学習」の事例をまとめることができた。

② 課題

今年度作成した資料等を基に、各学校・幼稚園の特別支援教育に係る理解啓発や取組の充実を図る。

(5) 次年度の取組

- ・次期「豊島区特別支援教育推進計画」（令和7年度～）の策定
- ・特に通常の学級における特別支援教育の充実を図るために、今年度に引き続き、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の「地域支援事業」に参画。

2 不登校対策委員会

(1) 委員一覧

役職	氏名	区分	所属等
委員長	藤平 敦	学識経験者	日本大学文理学部 総合文化研究室 教授 教職センター長
委員	原 成輝	医療	子どもメンタルクリニック新大塚 院長
	北川 英恵	福祉	主任児童委員（長崎第二地区）
	内田 典子	小・中学校長 代表	豊島区立池袋第一小学校
	平本 浩実		豊島区立池袋中学校
	磯 浩史	保護者代表	豊島区小学校PTA連合代表（巣鴨小学校）
小出 淳平	豊島区中学校PTA連合代表（西池袋中学校）		

(2) 委員会開催日

第1回	令和5年 6月 9日（金）	15:30～16:30
第2回	令和5年10月23日（月）	15:30～16:30
第3回	令和6年 2月19日（月）	15:30～16:30

(3) 今年度の検討テーマ

「不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保について～多様な居場所づくり～」

豊島区の「出席の取扱いに関するガイドライン」の内容について検討し、不登校児童生徒が学校内外で居場所を見つけ、教育機会を確保できるようにする。

(4) 今年度の成果

① 成果

学びの多様化学校（不登校特例校）の視察、不登校対策会議、にしまる一むの設置、校内別室指導支援員の配置等、区の取組を報告し、各委員より概ね良い評価をいただいた。

また、本区の不登校児童生徒の状況や区の対策等を基に、各委員より、「不登校対策に係る総合的な計画」や「出席の取扱いに関するガイドライン」に関する意見を伺うことができた。

② 課題

不登校児童生徒及び保護者に対する支援は、教育委員会・学校のみでは対応できないケースも多いため、保護者、関係機関等と連携した対策の充実が必要である。

(5) 次年度の取組

- ・「校内別室指導支援員配置事業」の継続（令和5年度は補正予算対応）
- ・スクールソーシャルワーカー（SSW）の増員及び中学校配置
 - * SSWを2名増員し10名体制とする。中学校配置（勤務）とし、各中学校区内の小学校を巡回する。
- ・「不登校対策支援員」の配置
 - * 中学校3校に配置
- ・「(仮称) 豊島区不登校対策総合計画」の検討
- ・「豊島区 出席の取扱いに関するガイドライン」の検討